

## 平成 2 1 年第 4 回大台町議会定例会会議録 ( 第 3 号 )

### 1 . 招集の年月日

平成 2 1 年 1 2 月 1 4 日 ( 月 )

### 2 . 招集の場所

大台町議会議場

### 3 . 開 会

1 2 月 1 6 日 ( 水 )

### 4 . 応 招 委 員

1 番	稲 葉 信 彦 君	2 番	上 岡 國 彦 君
3 番	堀 江 洋 子 君	4 番	中 谷 隆 司 君
5 番	小 野 恵 司 君	6 番	直 江 修 市 君
7 番	前 川 怜 君	8 番	中 西 康 雄 君
9 番	山 本 勝 征 君	1 0 番	大 西 慶 治 君
1 1 番	濱 井 初 男 君	1 2 番	前 田 正 勝 君
1 3 番	中 谷 治 之 君	1 4 番	廣 田 幸 照 君
1 5 番	森 本 泰 典 君	1 6 番	松 原 隆 之 助 君

### 5 . 不 応 招 議 員

な し

### 6 . 出 席 議 員 数

1 6 名

### 7 . 欠 席 議 員

な し

8 . 地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明の為出席した者の職氏名

町 長	尾上 武義 君	副 町 長	余谷 道義 君
教 育 長	谷口 忠夫 君	総 務 課 長	高西 立八 君
企 画 課 長	東 久生 君	会 計 管 理 者	上野 拓治 君
町民福祉課長	尾田 秀樹 君	生 活 環 境 課 長	鈴木 好喜 君
税 務 課 長	立井 靖樹 君	建 設 課 長	高松 淳夫 君
産 業 課 長	野呂 泰道 君	健 康 ほ け ん 課 主 幹	大滝 安浩 君
総 合 支 所 長	戸川 昌二 君	大 杉 谷 出 張 所 長	寺 添 幸 男 君
教 育 課 長	鈴木 恒 君	報 徳 病 院 事 務 長	尾上 薫 君

9 . 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	西山 幸也 君	同 書 記	北村 安子 君
--------	---------	-------	---------

10 . 会議録署名議員の氏名

15番 森 本 泰 典 君	16番 松 原 隆 之 助 君
---------------	-----------------

11 . 日程第 1 一般質問

1. 上 岡 國 彦 議 員
2. 堀 江 洋 子 議 員
3. 直 江 修 市 議 員
4. 稲 葉 信 彦 議 員

---

(午前 9時 00分)

### 開会の宣言

議長(中西 康雄君) 皆さん、改めましておはようございます。

定刻となりましたので、ただいまから平成21年第4回大台町議会定例会を再開をいたします。

昨日お伝えいたしましたように、副町長におかれましては、親戚にご不幸がございました関係で、欠席のご報告をいただいております。

直ちに本日の会議を開きます。

---

### 議事日程の報告

議長(中西 康雄君) 本日の会議日程は、お手元に配布してあります議事日程表のとおりです。

---

### 一般質問

議長(中西 康雄君) 日程第1「一般質問」を行います。

---

### 2番 上岡 國彦 議員

議長(中西 康雄君) 通告順番に発言を許可します。

通告順9番 上岡國彦議員の発言を許可します。

2番(上岡 國彦君) 皆さん、おはようございます。

議席番号2番 上岡國彦でございます。今回2点について一般質問をいたします。

1つ目、大台町内の施設給食における地産地消についてということで、質問させていただきます。昨年、12月議会第4回定例会にて、一般質問させていただきました。このときは食の安全安心と地産地消についてお伺いいたしました。町長の答弁では、食の安全については十分な配慮をして、安全であるというご返答をいただきました。また地産地消については、保育所の給食で使用する野菜や果物、すべての食材については特別な食材以外、ほとんど町内商店から購入していただいております。ということでございます。

また宮川中学校当時、今年はこの4月から大台町内小学校米飯給食を取り入れております。その米飯給食の米については宮川産ということで、宮川の多気郡農協より購入しているというお話でございます。施設給食については食材が揃わないということで、なるべく揃うものについては地元産を使用するというところでございます。たけれども、それもなかなか難しいような状態でございます。

そこで、私は地産地消を進めるには、この町内においてそれなりの基盤整備をして進めていかなければなかなか地産地消というのができない、食材を揃えることができないということで、こんなことは1年そこらではできるものではございませんけれども、一步一步基盤づくりから入って地産地消を広めていくように提言いたしましたけれども、そのことについてちょうど1年が過ぎようとしておりますけれども、どのような進捗になっているのか、お伺いいたします。

議長（中西 康雄君） 尾上町長。

町長（尾上 武義君） それでは、町内の施設給食におけます地産地消について、お答えをいたします。

昨年の12月議会の一般質問におきましても、学校給食ほか町内の施設給食の地産地消について質問をいただきました。1年が過ぎようとしている中で、その進展はどうやというようなことではございますが、去年は報徳病院、組合施設のやまびこ荘、崇雲寮の給食につきましては、それぞれ3施設とも全面委託を行ったことで、経費的にはかなりの額で節減の効果が出ているということをお答えをさせていただきました。

当時は、ちょうど事故米、汚染米の流出によります社会的混乱の時期でございました。幸いにも当町の保育園、小中学校では問題がございましたんですが、より一層の安全安心の食材確保の必要性を痛感させられたところでございます。

食材の確保につきましては、前回は申し上げましたが、報徳病院などの全面委託の町関係施設におきましては、委託契約条項の中で可能な限り地産地消の実践を行うことをうたっておりますし、保育園では野菜や果物などのすべての食材につきまして、特別な食材以外、ほとんどを町内商店から納入をさせていただいております。

小中学校につきましては、極力地場産物を利用するため学校から直接農家や納品業者へ注文させていただいておりますが、給食費の問題もございまして、価格が安く安全な同等の産物につきましては、県内、国内産のものを使用しております。お米につきましては、米飯給食を実施してございました宮川小中学校は、町内産のお米を多気郡農協から購入いたしまして利用してございましたが、本年4月から大台地域の小学校3校がパンを中心としました給食から米飯給食に切り換えてきたところでございます。これを機会に、給食を実施しております全校に対しまして、町内産のお米を使用することにいたしまして、JA多気郡から納入をさせていただいているところでございます。

そのお米につきましては、県の学校給食会から示されております単価をやや上回るわけでございますが、差額を町で負担をし、地産地消の給食に努めておりますので、ご理解をお願いいたしたいと思っております。

なお、基盤整備のことにつきましては、これといってまだ取り組みは少ないわけでもございますが、徐々にその納入できる範囲をですね、拡大をしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

議長（中西 康雄君） 上岡議員。

2番（上岡 國彦君） その地産地消に向けての基盤整備というのが、まだそんなに進んでないというご回答でございますけども、私は昨年、その協議会とかそういうものを立ち上げて、検討していくべきであるというふうに申し上げましたけども、なかなか進捗のスピードが遅いようでございます。

12月1日の新聞に、「学校給食提供をめざす」ということで、佐賀県の有田町にあるJA伊万里直営の農産物直売所ファームステーション四季ありたは、同JAのAコープ店舗統廃合を機に、空き店舗の有効活用を協議してできた直売所、同直売所の会員組織結いの会の会員106人で運営、安全で安心できる旬の地場農産物を子どもたちに味わってもらおうと、地元小中学校への食材提供も始める計画である。四季ありたの特徴を結いの会長の馬場さんという人ですけども、出荷される農産物すべてが新鮮そのものと強調する。会員は個人個人が生産履歴を記帳し、出荷を始めるときに直売所に提出するという徹底ぶり、新たな取り組みも検討中だ。旬の時期に農産物を提供しようと有田市内の4小学校と2中学校の学校給食に農産物を供給し、JAが取り組む地産地消を進める計画、現在実現へ向け、行政と協議している。

学校給食への供給が実現すれば、地域での、いつ、どのような野菜がとれるかを提示していき、献立作成に活用していく、メニューに入れてもらえれば量が必要、計画的な作付けが欠かせない、生産する農産物が地域で安定して消費できれば会員ら生産者にとってもメリットが多い。直売所オープンから丸2年、集客力を上げることを課題に、多彩なイベントを時点時点で企画していると。

このようにこの地区でも地産地消を進めるにあたっては、どうしても生産計画、消費計画にあわした生産計画を立てていかなければ地産地消は絶対広まらないと思います。それには当町においても保育園、小学校、中学校の給食、教育委員会、住民課だけで対処できるものではございません。産業課も庁内各課も一緒になってこのことを考えて、一つのチームづくりをし、また民間からの指導者も導入し、栽培履歴ということは農薬、食の安全に十分注意されて、生産されたものを小中学校、保育園に子どもたちに、食の本当に安全で安心な給食食材を提供できるのではないかと、そのように思っておりますが、町長のご見解をお願いします。

議長（中西 康雄君） 尾上町長。

町長（尾上 武義君） はい、どうもありがとうございます。この件はですね、

旧宮川で取り組んだ経緯がございます。そのおりに給食費のこともあったわけなんですけど、こう野菜等の値動きなんかも全部把握しなくてはならないとか、その量的なものとか、土がついておるとかです、いろんなその細かいことが全部ございまして、そこら辺のその納入する量的なものから、受け入れる側ですね、それぞれ大変な苦勞をしながらやってきて、終いにはちょっと消えていったようなことなんですけど、そのようなこう思いというのは十分私もようわかるんですが、実際にやっていこうとなると、非常に大きな壁がこう出てきてですね、途中で消えていったというふうなことになってきた経緯がございます。

1つには、今、道の駅というのがございまして、そこへ向いて生産物をこう納入していただくというふうなことで、余ったものはまた引き取っていくというふうなことになるわけなんですけど、そういったようなところで、例えば保育園、小学校、中学校というふうなことで、まとめてどこかで整理していくというふうなことも、やってできないことではないのかなというふうに思っておりますが、そういったような壁と言いますか、そういうものがかなりありますんで、おっしゃられましたように、庁内の各課、そういう検討をする組織も現在は全然できておらんですけども、そういったようなことが前に進められるんかどうか、一度また検討はしていくということで、今後考えていきたいというふうに思っているわけなんです。

なかなか難しいということは言えるんじゃないかと思いますが、そのようにして農地の有効活用なりですね、あるいはその生産される方々の生きがいとかというふうなことにもつながっていくわけですし、活力も出てくるというふうなことがありますんで、その有田市の例もですね、どのような形でやっておるのかというふうなことも、まずは勉強するというふうなことも含めてですね、検討してまいりたいと思いますんで、ひとつよろしくお願いをいたしたいというふうに思います。

議長（中西 康雄君） 上岡議員。

2番（上岡 國彦君） 旧宮川でやった経験、私もわかっておりますけども、なぜ失敗したか。昨年的一般質問の中でも申し上げましたように、計画性がなかった。ただ余った野菜を出してくれということだけで始めた。本当の計画的な出荷体制も

つくらずにやったということが、大きな失敗の要因でございます。

また、米についても先般みのり会のほうへ「米ほしいんや、給食に使うんで」と、そんないきなり言うてもらってもできるわけはございません。1年間どんだけ使って、どんだけの蓄えをしなければいけない、冷蔵庫の用意とか、冷蔵庫については森林組合さんをお願いして、特養林産物の冷蔵庫をお借りできるような話もしておりますけども、米の販売については米の検査を受ければどこでも販売できます。無検査のやつは販売できませんが、そういうふうの一つひとつやっぱり計画をもって進めていくということが大事なことであって、壁があって難しいんだということではなかなか前へ進んでいかないのではないかと、そのように思いますけども、今後、また長い時間早急にやれということとはとても難しいことです。やっぱり一步一步計画を練って、各施設と相談しながら進めていくうえで、その地産地消の確立がしっかりとできていければ、また昴学園、またはフォレストピア等の食材についても安定して供給でき、本当に地場のものを皆さん食べていただけるんではないかと、このように思いますけども、ひとつご見解をお願いします。

議長（中西 康雄君） 尾上町長。

町長（尾上 武義君） はい、ありがとうございます。そのように一つの軌道に乗っていければですね、いろんな施設にも波及効果が出てくるというふうに思います。私も決してね、難しいということで腰が引けておるということではございませんので、要はそれを本当にこう地域の活性化と相まってですね、そこへ向いて結びつけていけるかどうかというふうなことです。十分検討はさせていただきたいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

議長（中西 康雄君） 上岡議員。

2番（上岡 國彦君） 続きまして2項目目、大台町の農林業による地場産業、特産品等も含みますけども、についてお伺ひいたします。

大台町の地場産業、基幹産業でもありますけども、お茶、木材、干しいたけ等により、今まで過去生活を支えてきておりました。しかし、価格の低迷や獣害による被害等により減少し続けておりますけども、何か町としてのこれといった対策は

ないものか、ともに考えていきたいと思ってここに上げさせていただきました。大  
体原因は私も重々承知していることはございます。

2点目に、以前ウコンやヤーコン、またマコモダケ等が栽培されていましたが、  
ほとんど消滅に等しくなっております。比較的獣害に強いもので、今一度検証して  
みるべきではないか。

それから、また蒔栽培については宮川物産ほかからもたくさん導入しております  
けども、もうほとんど宮川産でできる、100%宮川産でできることを願って、フキ  
栽培については補助金制度を活用して、蒔の栽培拡大に努めていただいております。  
これは蒔の単価は年中一緒で、一番効率もいいように思いますけども、この制度は  
是非とも続けていってほしいものでございます。しかし、そのフキ栽培にあたりま  
して補助金を出す前と、出してからの宮川物産へ対してのこの出荷量の違い、波及  
効果はどのようなものがあったか、これもお伺いします。

ということは、フキ奨励金、奨励してもらってつくっても、どれだけの我々一生  
懸命つくっておるんやけども、どれだけの波及効果があるんかということ把握し  
たほうが、生産者にとってもまた力が入るものであり、指導するほうとしてもより  
指導のしがいがあるものではないかと思っておりますけども、こういうことも含めてご答  
弁のほうよろしくお願いします。

議長（中西 康雄君） 尾上町長。

町長（尾上 武義君） それでは、この地場産業の、とりわけ特産品開発につい  
てでございますが、本町の基幹産業は、まずは第1次産業ということでございます。  
農林業を充実させることが地域産業の活性化につながると考えております。そのた  
め、町では第1次産品の特産品開発、あるいは加工施設及び直売施設や地元産木材  
を活用したプレカット工場を整備し、地場産業の振興に努めてきたところでござい  
ます。

まずはこの木材ということでございますが、この需要が低迷する中で、住宅業界  
におきましては、雇用、所得環境の悪化からですね、新設住宅着工戸数は大幅に減  
少してきておるということでございます。エム・エス・ピーにつきましては、20年

度では年間 584棟の軸組み加工を行っております。地元の木材需要の拡大に努めてきたところでもございます。この木材につきましては町内で生産された木材を取り扱う宮川森林組合が53%納入しておると、宮川森林組合の製材加工場の年間売上が、約3億1,200万円ほどございますが、その約6割の分が三交ホームが購入し、エム・エス・ピーが加工をしてきたと、こういうような状況でございます。で、地元木材を使用しまして需要の拡大、あるいは地域への還元に努めるということで、雇用の場としても大きな役割を果たしているところでもございます。

なお、今後の間伐施業におきましては、国の補助金等を活用しながら推進を図っていきたいというふうに思っているところでもございます。ただ、その出してくるときには、この木材の搬出につきましてもコストの削減等行って少しでも山元に費用が回るというような方策も講じていく必要があると思っているところであります。そのためには、作業道を整備するとか、あるいはH型の集材方式等も導入しながらですね、団地化も図り、その効率化を推進していくということが必要でないかと、こう思っているところです。

農業につきましては、三セクの宮川物産が地場の農林水産物を使った加工品の製造ということでございますが、主力製品がキャラブキということで、このキャラブキに加えて、地域でとれましたしいたけ、あるいはこのしいたけを加工しまして、旨煮しいたけやら、しいたけのり旨煮などの製造販売も行っておるということでございます。

このしいたけは、道の駅奥伊勢おおだいの主力商品でございまして、このしいたけを乾燥させた干しいたけは、直売所はもちろん、個人店舗でも多く販売されておりまして、この干しいたけを使用したしいたけ寿司、や干しいたけのみじん切りを生地に混ぜました椎茸せんべいなどは、町の特産品とも言えるかと思えます。

しかしながら、しいたけの生産時期に限られるということから、年間を通しての生産と高齢化による後継者対策が課題となっております。引き続き町の特産品として生き残っていくため、生産者の皆さんの現状把握に努めるとともに町としての支援策の検討を始めたところでもございます。また、原木での栽培となると獣害もあり

ますことから、原木、または菌床による栽培の手法もあわせて検討してまいりたいと考えております。

また、お茶につきましても消費はペットボトルに押される状況でございます、このままで推移しますとペットボトルのお茶が、本来のお茶の味という錯覚になっていく可能性もございますので、学校や家庭で小さいときからお茶の味を知る、あるいは体感できるような手立てを講じていく必要があると思っております。

この農林産物の獣害の被害状況につきましては、21年度水稻共済支払対象となりました被害額は36万 1,000円でございます。対象面積が 155 a : 耕作者が22名となっております。その他の被害につきましては、集落周辺の菜園や原木しいたけへのサルの襲来に対して、役場への通報がありました。被害額につきましては把握できておりません。

これらの対策として、今年度から報奨金を増額したことによりまして、10月末現在のシカ、イノシシ、サルの捕獲数は、あわせて 636頭でございます。20年度の10月末の捕獲数は 313頭で、昨年と比べますと約 2 倍の 323頭も多く捕獲をいたしております。

で、獣害問題は年々深刻化しておりますが、地域が主体となって防護柵の設置や追い払い活動を実施していただけるよう町といたしましても、支援してまいりたいと考えているところでございます。

2点目のウコン、ヤーコン、マコモダケ等の栽培及びフキ栽培奨励補助の効果についてのご質問にお答えをいたします。宮川村当時に新たな特産品として、ウコン、ヤーコン、マコモダケ等の生産に取り組みをいたしました。現在これらは道の駅に生鮮品としてウコンが 3 名、ヤーコンで 3 名、マコモダケが 2 名の方が納品をしているところであります。

宮川物産へは 5 名の方が加工用にウコンを年間約 310・納品しております。これらの作物は主に温暖な地域が主産地であり、栽培結果、あるいは品質が劣ることが課題視されました。ほかに機械化が困難であることや、収穫期間も限られることが要因で、地域産業として拡大することができませんでした。またご指摘の獣害に強

いという点は、ウコン、ヤーコンはそのように聞いておりますが、マコモダケにつきましては、シカやイノシシの被害が著しいことを確認いたしております。こうした経験を踏まえ、今後は地域に根ざすべく、適地適作を重視した新たな作物の掘り起こしと、地域特産品として持続可能な作物生産を住民の皆さんと一緒に検討してまいりたいと考えております。

フキ栽培奨励補助につきましては、宮川物産で加工されたたました佃煮キャラブキが、道の駅奥伊勢おおだい等で販売されております。近年、自然食品への需要が高まる中、多くの人に親しまれているところであります。しかしながら、キャラブキの原料となりますフキの栽培生産者が高齢化等によりまして、宮川物産へ持込まれるフキの量が年々減少してきておりますので、平成15年度からフキ栽培推進事業を実施しまして、原料となるフキの生産量を増やしていくため、みのり会に委託もし、栽培指導や苗の配布を行った結果、集荷目標30tに対しまして、平成15年度では大台町、宮川村をあわせまして20.5t、68.6%でございましたが、平成20年度には町内の集荷量25tということで、78.8%と増加をしてきております。

町といたしましては、今後も特産品キャラブキの原料となるフキを地域の振興作物とするとともに、遊休農地対策や、高齢者の生きがい対策として栽培を推進してまいります。

また、その他の取り組みといたしましては、米価の低迷、米の需要が低下する中、有限会社みのり会が販売しておりますブランド米、宮川清流米のような付加価値を付けた米づくり等の推進や、昨年から浦谷地区では集落の周辺に植えられておりました柚子を使い、小規模ではございますが、柚子こしょうの加工生産に取り組んでおります。

また、これまでも何度か取り組んでまいりましたシカ肉の加工商品の開発に対しまして、三重大学と21年度から3年間にわたり調査研究、商品化へ向け取り組みを始めているところでございます。

こうした地場産業の活性化につきましては、就労者の高齢化、後継者不足、需要の低迷等により厳しい状況にございますが、地域の長い歴史の中で生まれました産

業でもありまして、この地場産業を振興させることが、この地域活性化につながることから、生産者自らが主体となった取り組みに対して支援をしてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いし、答弁とさせていただきます。

また、このフキの奨励補助金でございますが、以前は 150円と、キロ 150円という形でできておったわけでございますが、最近、もう 4、5 年前になると思いますが、160円に引き上げたというような形でございます。そこできちんと生産し、栽培しやっていただけの方については、かなりの収益につながっていくものだというふうに思っております。そういう意味もあって、多少は伸びておるのかなというふうに思っておりますので、ご理解をお願いいたしたいと思っております。

議長（中西 康雄君） 上岡議員。

2 番（上岡 國彦君） フキのほうは多少でも伸びているということで、結構なことかと思っております。

それからお茶について、お茶の消費低迷、価格低落による生産者の減少等もありますけども、何と云っても大台町地内は基幹産業の第一、お茶ということでございます。先般、茶業の大会がありまして、町長も出席しておりましたけども、その中でお茶によるうがいインフルエンザに大変効果があるということで、ほうぼうの新聞に載っております、この11月の27日の日本農業新聞にも、静岡市で公開講座、インフルエンザお茶が感染を防ぐということで、子どもたちにうがいを奨励しております。また茶業大会のときにも各新聞のコピーを出してもらっております。

「緑茶うがい有望」「新インフルエンザ予防しっかりと」「インフルエンザ退治、撃退効果」「茶カテキンで実証」と、この徳島文理大研究チームと、このようにほうぼうでお茶のうがいがカテキンの作用により、インフルエンザの予防に大変いいと。

いつやったか、その全協のときにインフルエンザの説明があったときに、お茶のうがいが大変効果があるというお話をしましたけども、何も実証されていないという返答でございました。しかし、今になってこのように効果があるということで、ほうぼうで実施もしております。当大台町としてもこういうことにより、茶の需要

の拡大、また子どもたちがお茶にふれることによって、将来的にやっぱりお茶は入れて飲まなあかんのうと、そのような認識を持ってもらうのにも、いいチャンスではないかと思っております。

当町においても各施設でサーバーなどを置いて、いつでもお茶を飲める、お茶でうがいができるというふうなことも考えていくべきではないかと、このように思います。

また、しいたけについては、特に乾燥しいたけですけども、私もしいたけが栽培が好きなもんですから、今年から人工ホダ場を試験的にして、今栽培をしております。これ1年ぐらいみないと結果がわかりなれないと思います。それは今現在は生えますけども、夏場をどのように越して、来年度の発生率がどういうふうか、そういうことを見極めたうえで、また皆さんに奨励もし、人工ホダ場で十分採算が取れるんだということを証明していきたいと思っております。

また、この松阪しいたけ組合の出荷量でも、10年前に比べて今もう10分の1なんですわ。もう今、三重県で1つのしいたけ市場がもう存続の危機に瀕しているというふうな状態でございます。また全農しいたけ市場にいたしましても、関西市場が引き揚げて、今もう関東のほうに1箇所しかないと、このような状態であるみたいでございます。

それと大分県では日本一の生産量誇っており、大分県の県の施策としてしいたけの生産振興、補助事業しいたけ生産基盤整備総合対策事業、しいたけ原木供給システム構築事業と、夢ひらくしいたけ経営支援対策事業、これ中身はいろいろありますけども、また細かいことは各担当のほうへ向いて渡しておきますけども、大分県は県としてこのような施策をとっております。

三重県もしいたけの生産量は多いほうでございます。特にその旧宮川村については品質もいいということで、単価も結構良かったし出荷量も大変多かった。この21年度の飯南大石、飯高奥伊勢、勢和、大宮、大台、宮川で一番多いのが大石で、1,000万円少し、勢和村で450万8,000円、その少なくなった宮川でも121万7,000円のしいたけ組合の出荷がございます。少しずつでもいいから、やっぱり獣害対策

に対応できる方法で、しいたけ栽培をしていただいたら、皆さんの町民の生産者の所得にもつながり、また地域活性化になる、地域活性化というのはやっぱりどんな事業を奨励し、補助金付けたらさげえやれと、そういうふうなもんでございませぬ。やっぱり個人の所得を少しでも生産者が得ることによって、楽しみが増えて、また次、また次と栽培する人も増えていきつつ、その需要の、町内の需要の拡大につながり、町内が活性化するのではないかと、そのようなことを思っております。

ちなみに、しいたけのことばかり申し上げて申し訳ございませぬけども、乾燥しいたけについては国内産が 3,867 t、中国産が 6,759 t と、10 t 626・の消費をされております。その10 tのうち 6,700・が中国産ということで、いくら中国産あぶないあぶないと言いながらでも、そんだけ賄わないことには国内需要に追いつかないということなんですよ。

このような観点から、宮川の大台の特産品として、また広めていく値打ちは十分あるのではないかと、特に今ほうぼうで原木しいたけというのは、すごく人気上昇しております。私も少しですけども、ほうぼうからの問い合わせもあり、先に希望も持っておるような感じでございます。このしいたけ栽培については、案外高齢になってもできるという利点もございませぬ。それは山へ行って切るのはえらいけども、人工ホダ場等の中でやれば、結構高齢の方でもその大規模というよりも、楽しみでできてお金が入るような施策になるのではないかなと、このように思っておりますけども、これからそのお茶に対したり、しいたけに対したりする町の考えをひとつ伺いたします。

議長（中西 康雄君） 尾上町長。

町長（尾上 武義君） さきほどもご答弁申し上げたんですが、やはり小さいときからこのお茶というものにこう親しんでいくような、仕組みというのが非常に大事やと思いますね。さきほど静岡県、その島田市の例もこう引き合いに出されたんですが、やはりそういうような、こうちょっとサーバーも置いて飲めるようなことも検討をしていきたいというふうに思っております。

また、このお茶でのうがいというふうなことで、川添保育園ではですね、そのよ

うな取り組みも進んでおるといふようなことでもございます。あそこではインフルエンザにかかった子が1人しかおらんといふようなことのようなんですが、結構そういうふうな効果もあるのかなといふふうに思っているところでございまして、今後このお茶の、こうなんて言うですかね、ペットボトルが随分出てきておりますんで、結構それが本来のお茶の味なんやといふようことで、錯覚していくくらいはあるのかなといふふうに思いますが、我々もこの幟を立てたりですね、いろんなところでお茶の宣伝はさせていただきますが、要は日常生活の中でどれだけお茶を点てもらおうかといふことの大事さといふのは、もう少し宣伝もし啓発もしていかなあかんのかなといふふうに思っているところでございます。

度会町あたりでも小学校でそのお茶を飲むような、急須でですね飲みようなといふふうなことで、急須も何百ももってきてですね、そこでやっておるといふふうな事例もあるようですんで、ここら辺も少し勉強させていただいて、取り組んでもいきたいとなといふふうに思っているところでございます。

ただ家庭でですね、手軽にやはりペットボトルで冷蔵庫へ冷やしておいて飲むというケースが、かなり増えてきておるんじゃないかなといふように思います。わざわざお湯を沸かしてですね、お茶の葉を入れて点ててといふそのことよりも、非常にその手軽さが優先されていっておるといふ、そういう実態がございまして、それに対抗していかならんといふような実態になるんだろうと思います。そういう中でもやはり粘り強くですね、お茶の良さというものをわかっていただけるといふようなものを考えて、いかねばならないなと思っているところであります。

また、このしいたけでございまして。大変その獣害で悩ましいところはあるわけなんですけど、私も昨年の12月に大阪のほうでその市場を視察をさせていただく機会がございました。そのときにはですね、原木しいたけはものすごい早う出ていくんやと、中国産よりも国内産、もう当然それが一番早う出ていくといふようなことで、原木しいたけがドーンとつくってくれといふような話があったわけなんです。帰ってきてお前も早うどこ何とかその原木しいたけせえといふようなことで話はし

ております。ただ、誰がどのようにやるのかと、そしてまたその何と言いますか、支援できる体制をどうするかというようなことで、検討はするようには指示をしているところでございますが、今ひとつ前へ進みにくいという部分がございます。

当然、上岡議員おっしゃられますように、こういったものですね、非常に収益も見込まれるんだらうと思いますが、それもやりようだと思うんですね。そこら辺も研究しながらですね、前へ向けていけるような形を構築していきたいというふうに思っております。

また、その高齢者でも取り組めるというふうなことでございますし、まずはその獣害というようなものから、何と言いますか、獣害にあわないようなところから考えつつですね、やっていかならんのかなと思っております。で、もっと言いますとですね、木はドーンとあると思うんです。木はあると思うんですが、やはり1つの集落対策というようなことで、出張所長にもちょっと言っておるんですが、この大杉地域の中でそういうようなこともできんかよと、グラウンドも空いておるんやで、グラウンドも活用して、もうハウスもドーンとつくって、それでやるというような方策もちょっと考えてみよよと、そしたら領内地域から荻原地域からずっと広くですね、大台のほうにまで広げてきてですね、そういったようなのが、もう言うからしいたけの一大産地なんやというぐらいのどこまでいけんかいなというようなことで、私の頭の中では思っておるんです。

ただ、それをどのように支援していくかとなると、具体的なところでなかなか前に進みにくいと、それでまた適当なそういった補助事業等も探したいなと思うておるんですが、そこら辺も上手くいくんかどうかというようなことで、多少年数はかかるかもわかりませんが、前へ向けてですね、取り組んでいきたいなというふうに思っているところでございます。

当然、やるからにはその採算性とかですね、そういったものも見極めていかんやらんと、もうこれまで多くですね、あれもやってこれもやってというようなことで、取り組んだ経緯もございます。その代表的なのがグリーンアスパラなんですけど、ああいっただようなことでもですね、もう本当に田んぼのどこ終わって、そしてまた大

きな金かけて、実際農協でももう段ボールの箱も印刷して、そしてまた冷蔵庫もつくり、もうものすごい何やらベルトですな、あんなものつくってわけもない体制をつくったわけですね。2年でアウトになっていったということがありますんで、あんなんでこう市場の値下がりがですね、極端にやってきたというようなことで、それでさっぱり消えていったというような経緯もございますが、それ以外でもですね、これはええんや、あれええんやというてやったものの、全然売れ先も何も考えずにやってきた思いが、これやったらええんやと言うて、我がと勝手に考えてやってきたということで、それは結局あかん、もうすぐに消えていったような、そういうことがあるわけなんですけど、しかし、私は10やってですね、10とも成功するということは、これは難しいと思うんですね。そのうちのやっぱり2つ3つというものが成功して、2割バッテリーでも3割バッテリーでも上等やと思うんですが、しかし、あとの失敗した7割、8割は何で失敗したんやという検証もしっかりしながらですね、次へつなげていくというようなことが、日々求められるのかなというふうに思っております。

そういう中でも、やっぱりこの地域に根ざしたものの、これがやはり強いものになってきますんで、そういう思いを持ちながらですね、やっていかなあかんのかなと思います。さきほど申し上げられた大分のそのしいたけなり、あるいはお茶でもですね、鹿児島県、そういったようなところで、県としての力の入れようも非常に強い部分がございます。そういうことで三重県での取り組みも求められるところでもございますんで、そこら辺は地域の活性化、あるいは過疎地域の振興のためにですね、手は打っていかねばならないということが多分でございますんで、なお頑張っってやっていきたいなと、こう思っているところでございますが、また上岡議員からもご指導をいただきますように、よろしく願いをいたしたいと思っております。

議長（中西 康雄君） 上岡議員の一般質問が終わりました。

---

議長（中西 康雄君） しばらく休憩します。

再開は10時ちょうどといたします。

(午前 9時 45分)

---

議長(中西 康雄君) 定刻となりましたので、休憩前に引き続き一般質問を再開をいたします。

(午前 10時 00分)